

## 会員の広場



### 私の趣味 記念コイン蒐集

中川 俊洋（東京）

幼少の頃から物を集めるのが好きだったようです。菓子箱いっぱい集めた「メンコ」や「ビー玉」が宝物の時代。小学生になると隆起したといわれる小高い丘に登り、縄文模様の「土器の欠片」や「アンモナイト」などの「貝の化石」を集めたり、切手収集にも染

まったりしました。が、その頃に収集した物は今では何一つ残っていません。

唯一、今も続いているのは国内発行の「記念コイン」の収集です。きっかけは母の実家の物置にあった古い座り机の引き出しから出てきた十数枚のアルミと銅の貨幣でした。それぞれに大正、昭和の製造年と一銭、五銭、十銭と刻印されており、子どもながらにとても興味をひかれたものです。

その頃からスタートしたコイン収集は、昭和年代64年間に国内発行された一円から五百円までの6種類の硬貨はすべて年号別の「裏・表」にしてコインブックにファイルされています。皆さんもご記憶にあると思います。す穴なし五円（国会議事堂）やギザ十、二回

りほど大きかった五十円玉（菊の絵柄穴なし・穴あり）、鳳凰や稲穂の百円玉などもあります。昭和30年代末、経済が右肩上がりの頃に造幣局から国内初の記念コインが発行されました。第一号はご存知の東京オリンピック記念（昭39）の千円と百円の銀貨です。その後、札幌冬季オリンピック記念（昭47）や青函トンネル開通記念（昭63）、もっとも高額な十万円金貨となった昭和天皇御在位60年記念（昭61）など、50数種に及ぶ記念コインは時代史を反映するかのようです。

その中には珍しいカラーコインもあります。が、ご存知でしょうか。国内最初のカラーコインは平成15年に青森で開催されたアジア冬季競技大会を記念した千円銀貨で、「真っ赤

なりリンゴ」が描かれています。また同年11月の奄美群島復帰50周年記念千円銀貨の「ルリカケスとテッポウユリ」も色づかい鮮やかで見事な物です。

平成20年から地方自治法60周年を記念して、47都道府県のカラーコインが順次発行されています。県別のトップを飾って洞爺湖サミットで脚光を浴びた北海道から始まって、平成25年までに32県が発行されました。中でも高知（坂本竜馬）、岩手（国宝中尊寺金色堂）や世界遺産に登録された富士山デザイン静岡、山梨が大人気です。

平成26年から発行される残りの15県、7年後に日本で開催されるオリンピックの記念コインなど、今から心待ちにしています。